

研修報告書 No.4

研修先： 土佐市立土佐市民病院

2021年1月4日から1月29日まで土佐市立土佐市民病院で研修させていただきました。また、地域のクリニックでの訪問診療に同行し見学しました。

高知県は日本最後の清流といわれる四万十川のほか、仁淀川、物部川、安田川など四国山地に源を発する清流が多く流れ、室戸岬・足摺岬・龍河洞・四国カルストなど多くの天然の観光資源を有する自然豊かな地域です。高知県の人口は全国で3番目に少なく、特に高知市への偏在が見られます。医療資源も高知市に大きく集約されている印象です。高齢化率は32.8%で全国平均の26.6%と比べて非常に高く、全国で3番目に高い数値となっています。

土佐市は高知市の隣に位置している人口約2万5000人の市で、土佐市民病院は急性期病棟96床、地域包括ケア病棟54床を合わせた150床を有し、仁淀川地域の中核病院として機能しています。診療科も充実しており、高知市まで行かなくても市民が医療を受けられる体制を提供しています。

研修医業務としては、月～水曜日は午前か午後に内科外来を担当、木曜は小児科外来を見学、金曜日は外科外来を担当し、月曜日は人間ドックも担当します。そのほかの時間は病棟業務か検査の見学をします。内科外来は初めてでとても不安でしたが、指導医の先生にすぐに相談できるため安心して診療できました。初診患者さんについては、次回フォローのために外来予約することも大事だと感じました。特に難しかったのが発熱患者さんへの対応でした。普段は神奈川県で勤務しているためCOVID-19の患者さんも一定数おり、COVID-19検査を一番に考えてしまうのですが、土佐市では少ないため、接触・行動歴などから判断する必要があります。地域によって疑う疾患が異なることも学びました。

病棟業務については、自分が入院させた患者さんは主治医となってマネジメントします。入院時のICやDNAR取得、かかりつけ医への診療情報提供書作成など今まで経験しなかったことを経験できました。ADLの低下した高齢の患者さんではゴールをどう設定するかが難しく感じました。併存疾患については、あえて積極的治療をしないことも学びました。また、今までほとんど触れたことがなかった心エコーがある程度当てられるようになりました。心不全の患者さんにベッドサイドでエコーを行うときに、指導医の先生が長い時間後ろについて指導してくださり、とても勉強になりました。手術では開腹や閉腹と結紮もやらせていただき、大学病院では経験できないことをさせていただき、とても勉強になりました。

今回、諸般の事情で地域クリニックでの研修が縮小されてしまったことは大変残念ですが、ひろセクリニックでは訪問診療に見学同行させていただく機会を得て、多くの学びを得ました。

今回、土佐市民病院を中心とした地域医療研修を通じて、医師として診療に必要な知識や

技能だけでなく、急性期から回復期そして慢性期におけるそれぞれの医療機関の役割や、最も身近な存在であるかかりつけ医の役割について考え、地域医療連携についても学ぶことができ、大変充実した研修となりました。今回お世話になりました先生方、職員の方々、地域の方々皆様に心から感謝申し上げます。